



目次

巻頭言	1
全連退理事会報告	1
全連退東海北陸地区協議会報告	1
県退職校長会「研修会」報告	1
地区退職校長会だより	2
生き生きライフ	2・3・4
会員交流広場	4

題字 安藤好子 (元 名古屋・野立小)
19年度入会
絵 高木喜代美 (元 名古屋・中島小)
25年度入会

変化とその対応

副会長

一宮 登



最近よく聴かされる言葉に「きょういく」「きょうよう」がある。今日、行く所があったり、今日、用事があったりするものが大切であるのとこと。退職後の変化とその対応を示していると感じている。

総選挙では、教育の無償化が声高に言われた。何を今さらとの想いで聴いていた。教育に携わる者のみならず、国民が願っていたことではないだろうか。経済が優先され、福祉が後回しにされてきた。少子高齢化が急速に進むという変化は、皆分かっていたはずである。その対応は今からでも遅くはない。

無償化だけでなく、教員の多忙化解消、教職員定数改善などの施策とともに、教育予算を大幅に増やして、学級担任複数制、二十人学級の実現を図ってもらいたい。日本を

取り巻く世界が大きく変化している。その対応にミスがあってはならない。教育の充実こそが対応の重要な鍵であると考えてるのは私一人ではない。

自動車業界でも大きな変化が進んでいる。ガソリン車やディーゼル車から電気自動車や燃料電池自動車へとシフトされている。人工知能の進化とともに、その変化の速さは、人々の予想を超えるものである。その対応にしっかりと取り組んでほしいと願うばかり。

オイルショックの際に、化石燃料は二十年後には枯渇するだろうと言われた。原油はやがて無くなる。しかし、これから原油が余り、世界の産業構造が大きく変化することは、予測できる。日本の対応を大いに期待している。

本年度、政令指定都市への権限移譲に伴い、現職校長会で大きな変化があった。八月の研修会で県校長会長より、緊密な連携を保ちながら、円滑に運営ができています。円滑に運営ができています。円滑に運営ができています。

県退職校長会は、先人達が創り上げた「愛知はひとつ」という想いで、現職校長会との連携強化を目指したい。

全国連合退職校長会

第二回 理事会報告

平成二十九年九月二十二日 江戸東京博物館において全連退「第二回理事会」が開催され、本県から加藤正躬会長が参加した。

全連退戸張敦雄会長の挨拶に続き、三省（文科省・厚労省・総務省）への要望書提出、教員の働き方改革に資する提言、各部・委員会の活動状況の報告が行われた。

午後、文科省が進めようとしている「地域学校教育活動」についてハグループに分かれ意見交換をした。

全連退 東海北陸地区

協議会 報告

十一月九日・十日、松阪市で東海北陸地区協議会が開催され、本県からは加藤正躬会長と大久保慎一・江本隆副会長の三名が参加した。

協議では「組織の強化・活性化の取組」について、各県の実情をもとに熱心に話し合われた。次に、本年度から発行予定の「東陸地区会報」について再協議された。全連退・東陸地区協議会の情報を各県が会員への伝達をより一層充実させることで、発行が見送られることになった。また、各県の地域や学校への支援について情報交換した。

県退職校長会

「研修会」報告

八月一日、愛知県小中学校長会長の稲垣寿先生を講師にお招きし、県退職校長会役員を対象に「教育の今日的な課題について」と題したご講演をいただいた。

今、校長会が取り組んでいる課題として、十月の東海・北陸地区連合小学校長会教育研究愛知大会に向けた取組、「六三制教育七十周年記念愛知県小中学校誌」の年度内発行に向けた準備、多忙化解消に向けた調査研究等を挙げられた。これらの課題に対しての校長会としての取組を具体的に紹介していただいた。

最後に、加藤会長が、お礼の言葉とともに「退職校長会としては、できる限りの支援をしていきたい」と語られ、研修会を終了した。

今日の課題について語る稲垣校長会長



熱心に聞き入る参加者の皆さん

地区退職校長会だより

県内の各地区退職校長会からたよりをいただきました。互いの理解と親睦を深めるため、順次紹介しています。

海部地区退職校長会

「海部地区退職校長会」は、昭和五十三年に設立され、海部地区の小中学校の校長退職者、または、他地区の小中学校の校長退職者で在住の希望者で構成されています。本年度の会員数は、二百八十八名となり毎年微増しています。

会は、親睦と研修、情報交換を目的としております。

総会は、新入会員十一名を迎え、七十八名の参加で去る五月九日十時より津島市生涯学習センター小ホールで開催しました。

会長の挨拶に続き、年度内に亡くなられた八名に黙祷を捧げ、ご冥福を祈りました。

新入会員の自己紹介、庶務会計報告に続いて、「白寿」米寿を迎えた会員へのお祝い品贈呈が行われました。

米寿の方が、この年になると苦勞が苦勞でなくなると言われた言葉が印象的でした。

次に、「会員の言葉」と「現職校長会代表者の現況報告」が行われました。

「会員の言葉」は、加賀昭一

会員にお話し「心が濡れないように」という演題で話していただきました。

三つの養生その一は、身体。その二は、頭(知)。その三は、心(徳)。明快で時にユーモアを交えながらのお話で、これからの生き方に必要不可欠な養生と強く心に響きました。

「現況報告」では、道德の教科化や勤務時間、高齢期における雇用問題等について報告されました。その後会食に移り、和やかな雰囲気の中で会員相互の親睦を深めることができました。

(18年度入会 安井孝子)

豊川市退職校長会

豊川市は宝飯郡四町との合併により、新しい豊川市として生まれ変わりましたが、現時点では、そうした経緯もあり、豊川市には豊川市退職校長会と、旧宝飯郡から続いている宝飯郡退職校長会の二つの会があります。今回は、豊川市退職校長会について紹介させていただきます。

豊川市退職校長会は「想旧会」と命名され昭和四十九年に発足し、豊川市の小中学校で校長として退職した者を会員としています。「想旧会」は年一度懇親会を開催しており、今年度も八月に下は六十一歳から上は八十七歳までの会員が多数参加しました。懐かしい先輩の方々に会いし、昔話に花が咲き、楽しいひと時を過ごすことができました。

懇親会の幹事は毎年新入会員が務めることになっていますが、終始とても和やかな雰囲気の中で会が進行しつつも、時には熱のこもった教育談義が始まることもあります。年齢的には幹事担当の新入会員が本当は一番若く元気なはずなのですが、「生きていれば、来年も参加します」などと笑顔で口にする大先輩の先生方から、趣味や余暇の過ごし方などについて様々なお話をうかがい、元気をもらったり励ましていただいたりしているのはむしろ若い者の方というのが実際のところですよ。

先輩の先生方が今後もお元気で過ごされ、また来年もお会いできることを願いつつ、会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈りいたします。

(29年度入会 権田定芳)

熊を作っています！

23年度入会 加藤由紀子
(元 名古屋・吹上小)

熊のぬいぐるみが「テディベア」と呼ばれるようになったのは、アメリカのセオドア・ルーズベルト(愛称「テディ」)の狩猟旅行での出来事にあるといわれています。欧米では、男女を問わず生活の一部として愛されていると聞きます。

現役の頃からテディベアを作っていました。当時、教育相談を専門とする先輩の先生が「教えてもらうことは大切なことだと思う。」と語っていたことがありました。「教える」教員生活の一方で、三年間ほどテディベア教室に通い手ほどきを受けました。教室を休んだり、中断したりすることがよくありましたが、退職後もなんとかベア作りを続けてきました。

今は、ゆったりと時間が流れます。ベア作りを習うことはしていませんが、気の向くままに自分らしさが出ることをモットーに作っています。ベア

お城めぐり

24年度入会 岡田 康夫
(元 瀬戸・水野中)

退職してはや六年。第二の職場も終え、やっとスローライフが味わえると思いつつ、実際にはなかなか難しい。

それでも、現職のときから集めてきた映画や音楽を見たり聴いたりするくらいのゆとりはでき、楽しんでる。

また、五年ほど前、偶然立ち寄った大垣城で、「お城スタンプラリー」のパンフレットを見つけ、はまった。



私のテディベア

もともと歴史好きであったから、東海三県を中心にお城めぐりを続けている。

犬山城や松本城など現存する国宝天守は別格で、歴史の重みを感じ、私が今気に入っている他のお城をいくつか紹介する。

まず、景観の素晴らしさで岐阜城。「天下布武」を唱えた信長の居城である。金華山頂上に本丸がある。ロープウェイで登り、歩いて下るのもよし。木々の間から天守が見え、歩いていて気持ちがよい。

次に、掛川城。山内一豊が築いたお城である。平成六年に木造で復元されたとてもかわいらしい天守である。全国的に見ても貴重な現存御殿がある。

最後は、横須賀城跡。かつてはお城の手前まで海が深く入り込み、掛川城とは船で直接行き来することができたようだ。このお城の特徴は、



「玉石積み」の石垣

「玉石積み」とよばれる丸い河原石を用いた石垣にあり、大変珍しい。

マイ工房づくり

26年度入会 鈴木 正七
(元 豊田・益富中)

退職する数年前から、「人生の楽園」という番組を見ながら、今後の人生をどう過ごそうかと考えていた。私は技術科を指導していたこともあり、「ものづくり」が好きで、時間を見つけては木工やミニ盆栽などに取り組んできた。

退職後、非常勤で働き始めたこともあり、自分の時間をもてるようになり、「ものづくり」に拍車がかかり、工作室や工具庫が今まで以上に必要となってきた。そこで、思い切って「マイ工房」をつくろうと決意した。設計図を描き準備を進め、二年前に着工した。小さな工房ですが、全て自作となると大変でした。約一週間で外観は完成、その後内装、工房への廊下など半年かけて完成にこぎつけた。



完成したマイ工房

今では、小学校の地域支援室主催の「クリスマスリースづくり」の準備やクラフトづくり等を工房で行っている。

完成後も、工作機器の配置等工夫を凝らしながら工房を進化させている。また、工房でのコーヒータイトムや夜の晩酌を楽しみながら、作品作りのアイデアを出している。

最近では、三歳と一歳の孫が粘土遊びやお絵かきをする場となっている時もよくある。孫の成長を見守りながら「ものづくり」をこの工房で今後も続けていきたい。

嫌われる勇氣 発信中

27年度入会 伊藤 辰男
(元 海部・蟹江小)

昨年の四月から、大学で教員採用試験を目指す学生を相手にした講座を受け持たせていただいています。

小学校勤務を最後に退職した私には、大学生を相手の講義は、ある意味カルチャーショックですが、大変やりがいのある仕事です。

しかし、現在の大学の様子を見ていると、自分の学生時代に少なくとも、教採のための勉強の場は今ほどはなかったなあと振り返るのです。



学生とともに

勿論、ある時期、真剣に勉強した記憶はありますが。何か機会を用意しないと競争の激しい中では、合格が難しいという現実が横たわっているわけです。同時に、自ら打って出る気概を持って、児童生徒の前に立てる人物になって欲しいと思います。

したがって、私の講義の柱は、「現場に欲しいのはこんな先生だよ」言い換えれば、「こんな教師はいらない」。

でも、そんな講義でも、目を見開いて真剣に話を聞いてくれる学生の真剣な様子を目の前にすると、これから、荒波に耐え、未来の教育現場を牽引していこうと、強い決意を持って採用試験を目指す学生を叱咤激励していくのが、「私の生き生きライフ」。学生諸君には迷惑この上なし。しかし、学生のやる気に反応して、私の、『嫌われる勇氣』も全開の生活です。

自然との出会いを楽しむに

28年度入会 加藤 幸雄
(元 名古屋・正木小)

昨年度から、(公財)名古屋市教育スポーツ協会野外教育課で勤務させて頂くことになった。勤務内容は、小中学生科学教室の運営である。自然体験や社会体験、製作活動を通して、楽しく学べる内容を企画している。

この科学教室は、五十年以上の歴史がある。かつては百以上あったコースも、現在は四十程度のコース数となった。

特に、コース数が多く人気のあった岩石コースを維持・改善していくことが重要となっている。とは言え、水晶や化石を採取できるところを探すことは難しく、新たなコースを新設することはできないと思っていた。

夏休みが終わり、次年度の計画を考えていた時に、今年入った同僚が「東栄町の栗代鉱山に行きませんか」と提案してきた。栗代鉱山は、セリサイト(絹雲母)を産出する日本で唯一の鉱山である。セリサイトは、化粧品のファンデーションの原料であり、栗代鉱山の産出量は世界一であ

ることを初めて知った。

粟代鉱山コースを親子コースにして、まずは母親の興味を誘い、子どもたちには写真の坑道見学とセリサイトとともに産出する立方体の結晶がきれいな黄鉄鉱をお土産にすることによって、応募者が増えることを期待している。

趣味がなく、遠くに出掛けることがないので、こうした出会いを楽しみにして日々過ごしている。



粟代鉱山坑道

我が家の小さな水族館

29年度入会 伊藤 雅朗
(元 新城・新城小)

玄関に一步足を踏み入れると、そこにはネオンテトラやクラウンローチが優雅に泳ぐ小さい水槽がある。書斎には、色とりどりのグッピーやコリドラスが気持ちよさそうに泳ぐ中くらいの水槽がある。さらに、廊下の出窓には、エンゼルフィッシュやプレコが我が物顔で泳ぐ大きい水槽がある。まさに、我が家の小さな水族館である。

私が、熱帯魚を育てるよう

になって何十年になるのだろうか？

最初に私が飼いだした熱帯魚は、二匹のエンゼルフィッシュであった。ある日、そのエンゼルフィッシュが、小さな透明な卵を産みつけた。しかし、楽しみに見守っていた私の知らぬ間に、親が卵を食べてしまった。そこで、親から卵を離してみると数日たつて、小さな卵から無数のエンゼルフィッシュが誕生し始めた。その孵化の瞬間は、まさに私の心をときめかせた。それから、ディスクスの飼育に挑戦したり、育てた巨大化したプレコを学校に寄付したりした。

今日も、我が家の熱帯魚たちに餌を与え、温度を管理し、定期的に水槽の環境を変えている。水草・流木・置物の壺の配置をデザインすることで、日本庭園風、西洋庭園風、ジャングル風などの風景を自由に創り出すことができる。

その

小さな

空間こ

そが、

私の心

を癒し

てくれ

ている。



我が家のエンゼルフィッシュ

会員交流広場

追想 '16-01

28年度入会 磯部 啓二
(元 東海・渡内小)

制作の構想を練り、作品を仕上げた後に題名を考えます。なぜかいつも「思慕」や「追想」を題名に選びます。どちらも好きな言葉です。



紅葉の寺

26年度入会 山田 哲郎
(元 名古屋・今池中)



停雲 (親しき友を思う)

28年度入会 澤井 恒樹
(元 豊川・御津南部小)



陶淵明の詩に「停雲は、親しき友を思うなり」とある。語り合うときを大切にしたいものである。

紅葉で有名な寺の道を眺めていると心が和んできます。日本の四季の美しさに感動しました。

会報を読んでの感想・意見や会員の皆様の作品【絵画・書・写真・短歌・俳句等】をぜひお寄せください。詳細は、事務局まで。

訃報 (内はご逝去された日)
近藤博之先生 (二九・十・二六)
元岡崎市立矢作中学校

ご逝去されました先生の冥福をお祈りいたします。

なお、本会より弔電にて弔意を表させていただきます。

平成二十九年六月二十一日から十二月二十五日までにご逝去され、事務局に報告があった七年会員の方を掲載しました。

事務局だより

ご多用の中を、原稿の執筆にご協力いただきました多くの皆様、並びに貴重な作品を投稿いただいた皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご協力により、予定どおり会報を発行することができました。これからも、会員の皆様に喜んでいただける会報になるよう、努めてまいります。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

愛知県退職校長会事務局
名古屋市中区新栄一丁目
愛知県教育会館六階 四九番一〇号
愛知県小中学校長会事務局内
電 〇五二一六二一八五二
FAX 〇五二一六二一六八〇七
E-mail ai-kocho@axel.ocn.ne.jp